

中国

「世界の工場」は内陸へ

ジェトロ海外調査部中国北アジア課 森 路未央

1990年代以降、華東や華南地域にグローバル市場向け製造拠点が集積した中国は、「世界の工場」と称された。しかし2000年代中ごろからは、製造コストの上昇、「両高一資」（高エネルギー・高汚染・資源消費）製品に対する製造管理の強化、都市化の拡大などによって製造拠点の立地再編が加速している。「世界の工場」は何処へ向かうのか。本稿では、電子機器産業の中国国内での立地再編に焦点を絞った。

内陸部で加工貿易が拡大

貿易総額に占める加工貿易^注のシェアは、2008年の41.1%から15年には31.5%へと低下した(表1)。しかし金額を見ると、加工貿易は14年までは増加していた。シェアの低下は一般貿易の拡大によるものである。地域ごとに見ると、沿海部では一般貿易が、内陸部は加工貿易の増加が著しいことが分かる。例えば、内陸部にある重慶市の場合、10年には一般貿易81.9%、加工貿易12.8%という比率だったが、14年には一般貿易31.3%、加工貿易57.0%と、加工貿易のシェアが急速に拡大した。

従って、かねて加工貿易が盛んだ沿海部の主要地域（深圳市や江蘇省）では、賃金上昇などによって製造コストの上昇圧力が強まったこともあり、加工貿

易は確かに減少しているものの、中国全体として衰退しているわけではない。内陸部での加工貿易の増加は、輸出型製造業が内陸部で発展したことを意味する。

以下では、税関別輸出データから、輸出型製造業が発展している地域を内陸部の中で特定し、その輸出品目や規模を整理する。

重慶市：ノート PC の生産輸出拠点に

重慶税関の15年の輸出額（341億3,251万ドル）を品目（HSコード）別に見ると、自動データ処理機等（8471）が204億2,897万ドル（同税関輸出額シェア59.9%）だった。このうち重量が10キロ以下のノートパソコン（84713090：以下、ノートPC）の輸出額が186億3,751万ドル（表2）。09年における自動データ処理機等の輸出額はゼロだったが、12年に100億ドルを突破し、14年には246億5,717万ドルに急伸した。また中国における同品目輸出額の21.6%が重慶税関発の輸出である。重慶は今やノートPCの一大輸出拠点になったといつてよい。

こうした背景には、米国の大手PCメーカー（ヒューレット・パカード）が09年に重慶に進出したことを契機に、台湾EMS企業（フォックスコン、クアンタ、インベンテックなど）の進出が相次ぎ、ノートPC組立産業の集積がこの地で進んだことがある。加工貿易を支援するための保税機能を有した開発区（西永総合保税区、兩路寸灘保税港区）の新設など、企業誘致に向けた政策を重慶市長（当時）がリーダーシップを発揮し一貫して打ち出してきたことが奏功した形である。

注目すべきはノートPCの輸出先国とその輸送手段である。まずは輸出先国。中国全体の輸出額に占める輸出先国別シェア（15年）は、

表1 貿易額の形態別・地域別の推移

(単位：億ドル、%)

		2008年	2010年	2013年	2014年	2015年	
全国	一般貿易	12,350 (48.2)	15,319 (51.5)	21,972 (52.8)	23,132 (53.8)	21,372 (54.1)	
	加工貿易	10,535 (41.1)	11,578 (38.9)	13,578 (32.6)	14,087 (32.7)	12,441 (31.5)	
沿海部	深圳市	一般貿易	790 (26.4)	1,095 (31.6)	1,473 (27.4)	1,751 (35.9)	1,837 (41.5)
		加工貿易	1,752 (58.4)	1,891 (54.5)	2,255 (41.9)	2,203 (45.2)	1,668 (37.7)
	江蘇省	一般貿易	1,352 (34.5)	1,656 (35.5)	2,332 (42.3)	2,485 (44.1)	2,388 (43.8)
		加工貿易	2,260 (57.6)	2,527 (54.3)	2,337 (42.4)	2,357 (41.8)	2,297 (42.1)
内陸部	重慶市	一般貿易	82 (85.7)	102 (81.9)	264 (38.4)	298 (31.3)	367 (49.2)
		加工貿易	7 (7.7)	16 (12.8)	328 (47.8)	544 (57.0)	288 (37.8)
	河南省	一般貿易	103 (77.0)	140 (78.7)	190 (31.6)	207 (31.9)	-
		加工貿易	23 (16.8)	31 (17.7)	385 (64.1)	422 (64.9)	-
	陝西省	一般貿易	56 (66.6)	68 (56.5)	85 (42.0)	84 (30.2)	79 (25.9)
		加工貿易	23 (27.9)	43 (35.4)	77 (38.5)	153 (56.1)	173 (57.0)

注：①河南省と陝西省の2008年は2009年の数値。②かっこ内は各地域貿易総額に占めるシェア
 資料：各地域の統計年鑑を基に作成

表2 内陸部の輸出型品目の輸出額の推移

(単位：万ドル)

税関	品目	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
重慶	ノート PC	0	0	44,228	513,627	1,251,323	1,975,135	2,465,717	1,863,751
鄭州	スマートフォン	0	0	0	72,909	1,652,777	2,236,333	2,398,653	2,956,760
西安	メモリー	0	1,292	34,260	59,937	105,132	233,225	410,128	432,876
合肥	ノート PC	0	0	0	0	37	59,041	257,244	207,941

出所：GTA

米国 34.5%、香港 15.5%、オランダ 7.8%、ドイツ 6.4%、日本 5.2% である。他方、重慶税関発の輸出については、米国 37.1%、ドイツ 20.1%、オランダ 4.2%、日本 3.4%、英国 3.3% であり、重慶からのドイツ向け輸出のシェアが高い。次に輸出手段別に見ると、鉄道輸送のシェアは、全国平均では 2.3% だが、重慶税関は 6.2% と高い。またノート PC の重慶発鉄道ルートでの輸出先国は、ドイツが 68.5%、英国が 6.6%、オランダが 5.7% を占めた。なおドイツ向け輸出額の 20.7% が鉄道ルートを通っている。つまり重慶は、中央アジア経由 EU 着の鉄道輸送の起点としても役割を担っているのである。これは中国政府が 13 年に提唱した「一带一路」政策によって建設された「渝新欧鉄道」がもたらした変化であり、同政策が内陸部の経済発展を押し上げた成功例であるといつてよい。

河南省鄭州市：中国第2のスマホ輸出拠点として

中部地域に位置する河南省鄭州市は、自動車産業の発展が目覚ましく、日産が進出していることでも知られる。だが 10 年、鄭州空港開発区に富士康科技集団（フォックスコン）がスマートフォン（以下、スマホ）工場を設立したのを契機に、酷派（Cool Pad）や中興（ZTE）といった中国のスマホメーカーも近隣に工場を建設、スマホ製造の一大拠点と化した。鄭州税関における 15 年の輸出額（324 億 8,293 万ドル）は、その 91% をスマホ（851712）が占めた。10 年のスマホ輸出額はゼロだったが、13 年は 223 億ドル、15 年には 295 億ドルへと急増している。15 年の中国全体でのスマホ輸出額は 1,251 億ドルであり、うち深圳税関が 41.6%、鄭州 23.6%、上海 13.1% となっている。鄭州は 12 年に上海を抜き、現在は深圳を猛追。世界最大のスマホ生産地になろうとする勢いである。

陝西省西安市：メモリー製造の一大拠点

西安税関における 15 年の輸出額は 104 億 4,055 万ドル、中国全体の 0.5% を占めるにすぎない。しかし同税関最大の輸出品目であるメモリー（854232）の輸出額は 43 億ドルで中国全体の 20.1% を占めており、上海と南京に次ぐ第 3 位である。西安のメモリー輸出は 10

年ごろに拡大し、15 年には 10 年比で 12.6 倍になった。なお、西安の輸出額の 3 割強は IC（集積回路）パーツである。

西安市の輸出型製造業の発展は半導体産業に特化している。しかしローエンド製品の大量製造拠点という位置付けではない。サムスン電子を中心に、マイクロン、インテル、XMC、日系では東芝などが進出し、世界主要メーカーの競争の舞台となっている。

課題は輸出品目の多角化

中国の輸出型製造業の立地は、貿易港から離れると物流コストが大きくなるため、これまでは沿海部の貿易港の近辺に集積してきた。つい数年前まで輸出型産業が内陸部で勃興するとは想像できなかったが、10 年ごろを境に、沿岸から数千キロも離れた内陸部に「世界の工場」が興隆していたのである。事実、沿海部の輸出拠頭に匹敵する規模にまで拡大した品目もある。

とはいえ、沿海部の輸出型産業が衰退しているわけではない。一部の沿海地域や品目では、確かに輸出額の減少が続いている。だが例えばノート PC の場合、華東地域からの輸出では、近年は上海税関発が減少する一方で南京が微増、合肥が急増しており、上海からの製造移管が進んでいる。沿海部から内陸部への移転・移管状況には地域差があり、全体ではまだら模様だ。

この数年間で輸出ゼロという状況から急拡大を遂げている内陸部の輸出型製造業にとって、課題は何か。それは輸出品目の多角化であり、産業集積をさらに高めるための企業誘致活動の強化、投資環境の整備などである。重慶では既にノート PC のほか、タブレット、スマホ、パネルなどの生産を開始している。鄭州はスマホ、西安はメモリー製造の一大集積地となっている。中国国内間、内陸部各地域間の競争が進み、地域による集積産業の色合いがはっきりしてきた。「世界の工場」中国の、国内各地における産業再編動向には、今後も注視する必要があるだろう。

JS

注：ここで言う加工貿易とは、保税扱いで輸入した原材料を中国国内で加工し輸出する貿易形態を指す。